

平成19年度第4回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成20年3月13日(木) 午後1時30分～4時30分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 委員
加藤 勇夫〔愛知学院大学商学部教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンカティン'オイス アット・ドリーム代表〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕
福岡 朋子〔愛知教育大学 学生〕
事務局
金子 宏〔豊田市産業部長〕
近藤 伴次〔豊田市産業部調整監〕
鈴木 辰吉〔豊田市産業部商工担当専門監〕
宮川 龍也〔豊田市産業部商業観光課長〕
成瀬 剛史〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
傍聴者
なし

【次第】 1 開 会
2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
3 委員長あいさつ
4 審議事項
(1) 商店街活性化計画について
・藤岡商工会 (資料1)
(2) 商店街活性化計画について
・一番街商店街振興組合 (資料2)
(3) 商店街活性化計画について
・ひまわり商店街振興組合 (資料3)
(4) 空き店舗対策支援事業について
・西町商店街協同組合 (資料4)
(5) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20～22)の更新について
・豊田まちづくり株式会社 (資料5)
(6) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20～22)について
・足助商工会 (資料6)
(7) 中小企業団体等事業の評価結果について (資料7)
5 その他
6 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成19年度第4回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) 商店街活性化計画について

・藤岡商工会

事務局より、資料1「豊田市藤岡地区商店活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定審議へ挙げる際の参考とする意見を委員からいただいた。

【主な質疑応答】

藤岡 1月の商業振興委員会でいただいたご意見を参考に実現可能な計画に修正させていただいた。

委員 日用品は地元で買うので、ポイントカードは鍵になる。消費者は目に見えて自分の得になるものが欲しい。まちづくりだけでなく個人にも割引などのメリットはあるのか。外来者と地域住民両方にメリットがあるように進めていただきたい。

藤岡 割引はもちろん、藤をキーワードに消費者が買いたいと思われるような商品づくりに取り組むなど、お客様満足度を上げていくことでポイントカード利用率が上がり、まちづくりにつながると思う。

委員 個々の商店の自助努力が大事。リピーターを呼び込む工夫も。

委員 まちづくり型ポイントカードがきちんと運用できれば新しいかたちの地域づくりの手法となる。還元方法を商品割引にするか、まちづくりのための記念品をプレゼントするかの仕分けはきちんとできているか。還元原資を商店主だけで確保していくのかどうか。地域の企業にも広がっていいと良い。むしろ広がっていくためのツールとしても利用できる。売上の目標は、ポイントカード加盟店だけに絞るという方法もある。情報発信施設の場所は、外部の人に対して行うのであれば、幹線道路沿いの空き店舗を利用することも検討いただきたい。

藤岡 新しい需要にも対応できるようにしていただきたい。

委員 委員の意見も参考に進めていただきたい。委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(2) 商店街活性化計画について

・一番街商店街振興組合

事務局より資料2「一番街商店街振興組合活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定審議へ挙げる際の参考とする意見を委員からいただいた。

【主な質疑応答】

一番街 非組合員への組合への加入に良いタイミング。

委員 タコス屋近辺に若い人が集まる。その周辺にも若い人が集まる店を集積できると良い。

一番街 若い人を惹き付ける飲食店は増えている。それに見合った物販も代替わりの際に検討してもらえよう考えたい。

委員 50～60代の女性は時間もあり昼のターゲットになる。駅からも近いし、マンションも出来た。のぞいてみたいと思うような手作りのお店、ちょっと休息する飲食店などその年代の女性を対象にする店も必要ではないか。

一番街 現状の商店街では、店内でくつろいでいただける店はあるが、商店街としてのこの空間にいると楽しいという雰囲気は乏しいと思う。幅広い年代に来てもらう工夫をしていきたいし、良いタイミングだと思う。

委員 全ての年代は難しい。どちらかに特化せざるを得ない。

委員 商店街全体にお客様の顔をきちんと見る商売の仕方が浸透していると良い。推進体制の中でターゲットとなり得る世代の女性を入れていくなどし、一人の顧客が商店街内の2、3店舗を回遊するような仕組みを考えて欲しい。

一番街 とにかく足を運んでいただけるような商店街にしたい。

一番街 固定客に楽しんでいただける店作りをしているが、通りとして一体感のあるまちづくりをしていきたい。

事務局 これ以上ないチャンス。この計画はスタートライン、見直しもどんどんしてもらえば良い。まずは着手してほしい。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(3) 商店街活性化計画について

・ひまわり商店街振興組合

ひまわり商店街振興組合 坂野代表理事、杉山副理事長、佐々木副理事長より、資料3「足助商店街活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 老舗を売りにしていくということだが、どれくらいの割合か。

ひまわり 創業50年以上の老舗が26店舗中16店舗。

委員 新しく整備すると老舗に見えるか。

ひまわり 見た目無く一店一店がプライドを持って、かつ専門的知識を提議できる店が老舗だと思っている。

委員 消費者がそう思っているか。それを打ち出す必要がある。

ひまわり 旧拳母地区では老舗商店街と認識されていると思う。

委員 一つの通りとして一番街商店街との連携は。

ひまわり 街路灯や歩道景観自体は一つの通りとして合わせていく。商店街組合員としてのまとまりがあり、活性化計画も皆で話して作成した。年末大売出しなどは面として一緒に実施していく。後継者に老舗の知識、ノウハウを伝承するとともに新しい知識も皆で月1回くらいは勉強会をしていきたい。それが一番実施したいこと。

委員 竹生という名の方が歴史的にも分かりやすいのでは。なぜひまわり通りと名付けたのか？

ひまわり 豊田市の花がひまわり。豊田市一番の商店街になりたいと思い、名付けた。

委員 一番街とひまわりは一本の通り、市はどのように見ているのか。別の商店街という見方をしているならば住み分け、機能分担が必要。

事務局 通りとしては一本で景観的には揃えていかなければならない。重要なのは、消費者のニーズに合ったものということであり、エリアごとの特色があって良い。

委員 競争的共栄、同じような商店街が連なっては消費者ニーズに合わない部分も出てくる。

委員 最初から商店街に役割分担を求めるべきかは議論の余地がある。選択肢のある街にしたほうが、消費者ニーズに合うのは確かだが、それは個店の集積の先に見えてくるのでは。そのためにも、まずは消費者が自分の気に入った店に行く機会をたくさん作るために、個々の店の魅力をいかに伝えていくかが大事。老舗の知識、信頼、店主の考え方などその店のストーリーが分かるように伝えていく情報提供の方法で実施すべき。それを消費者に選択肢のある方法で情報提供することが必要ではないか。例えば、一番街と共同でお店情報ブックを作成し、新しいマンションの住民に配布するなど見える形で実施していくことが必要では。

委員 それは商店街個々の動きではなく、豊田市商店街連盟が活性化計画を作った商店街をきちんとサポートして実施していくべき。

委員 組合員数維持の目標は適切か。

ひまわり 連なった商店街で空き店舗が一店舗しかない。そのの大家とは調整していきたい。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(4) 空き店舗対策支援事業について

・西町商店街協同組合

事務局より、資料4「空き店舗活用支援事業対象事業者審議書」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

西町 加納氏が率先して勉強会を開き、がんばっていききたいとの意気込みをしっかりと感じさせていただいた。組合としてぜひ応援したい。

西町 商店街、事務局からも応援をいただいた。モニターで地元企業のスポーツや市イベントを店舗内で流すような集大成。

委員 慈善事業ではない。活性化につながってもらわなければならない。

委員 おしゃれ居酒屋ということで若い人にも入りやすい雰囲気になることを期待している。

西町 一階は全てソファー席。二階は団体客に対応できるように改装していく。一、二階で150席予定。客単価は3,000円程度を考えている。

委員 平日・休日の客層、回転はどのように考えているのか。

西町 基本的には100名が一度に宴会できるような席を2階に用意し、団体客を狙っていく。1階はおしゃれなソファー、40名までの結婚式の2次会も実施可能。マイクロバス3台で送迎可能。昼営業は考えていないが、要望があれば単価の高いランチを考えていきたい。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(5) 商業活性化推進3ヵ年計画の更新(H20~22)について

・豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり株式会社 深津取締役、杉本部長より、資料5「豊田まちづくり(株) 第二期商業活性化推進交付金事業(3ヵ年計画)の概要」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 商業活性化推進交付金とは提案型の高補助率補助金にもかかわらず新しい提案が無い様に見えるがいかがなものか。

委員 中心市街地活性化計画に基づく事業は行わなければならないので、それ以外の事業について、活性化交付金事業としてふさわしいかの議論をすれば良いのか。

事務局 そのとおり。交付金事業としてふさわしいかどうかの判断をいただきたい。提案型事業として、立ち上げの時期は特別高い補助率で援助していくが、動きだしたら通常の補助金でも良い部分もある。交付金事業として3年立ったので1ステップ上がってほしいと思っている。

委員 大型店の魅力化とは研究調査レベルか。情報提供をずっと行っていく必要はあると思うが、それをずっと高補助率でやっていくのかという点は疑問がある。

まちづくり 当然、大型店にも負担してもらっており、さらにそこに交付金を利用することで詳細の調査ができているのが現状。これは大型店だけの視点で行う調査ではなく、来店客の動向もきちんと調べている。

委員 大型店はその情報をきちんと活用する力があるが、その力が無い商店街や個店に関して、形にしていくノウハウを伝えることを考えていかなければ、各商店街の計画も意味がなくなってしまう。

まちづくり 大型店の調査内容も19年になって意識が変わってきたので自己負担を求め、必要な情報が手に入るようになった。それを個店レベルに広げてきちんとしたマーケティング情報を示すことができるよう展開を考えていきたい。

委員 各商店街の計画での情報提供方法についても、何をどのように情報提供していくかを具体的に描いていく必要がある。

まちづくり 情報発信事業についても少しずつ実施してきている。今まで実施してきたものを蓄積し、展開していきたい。

委員 情報発信事業とテナントミックス事業をきちんとリンクさせなければならぬ。

まちづくり 各交付金事業全てがリンクしていく。それぞれ単独ではなく全事業が一緒に動いていく。

委員 過去3年間は事業の立ち上げを行った。次の3年間はリンクさせ、成果を引き出すことが重要。

委員 最初の3年間で踏まえて段階的に進めることは重要だが、計画書だけ見ると前の3ヵ年計画の延長線上に見えてしまう。提案型の高補助率補助金と考えると、新しい項目とまでは言わないが、中身についてもう少し新しいものが無いのか、また継続事業に関しても高い補助率を維持するに足る理由を説明できないと委員会としてすんなりと認めにくい。既存事業は続けていかなければならないと思うが、受益者負担などの自助努力も検討が必要。各委員の意見を参考にいただき、委員会としては、条件付の認定と考える。

(6) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20~22)について

・足助商工会

足助商工会 宇井会長、鈴木副会長、小松副会長、秋本事務局長、柴田経営指導員より、資料6「足助商工会 平成20年 - 22年度商業活性化推進交付金事業(3ヵ年計画)」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 商工まつり事業が交付金事業の中でかなりの金額を占めているが、今まで続けてきた内容と変わるのか。ただのまつりを高補助率とするのはどうかと思う。

足助 商業振興策として商店街へ人を流す仕組みを作っていくという部分を3年間は商工会で行い、その後、商店街が自分たちで実施できるようにしていきたいと考えている。

委員 商工まつりは集客があるのか。

足助 感謝祭として実施し、集客はある。その集客を利用したい。

委員 商店街が潤わなければ意味がない。集客を商店街へ流していくという部分を強く打ち出していかなければ、感謝祭に交付金を出すように見えてしまうのでいかがなものかと思う。商店街の活性化につながるよう、3年間も自助努力を促すように。

委員 チャレンジショップはどこを想定しているか。

足助 まだ決めていないが、空き店舗の場所だけは確認している。既に打診の来ている場所もあるので2、3軒はすぐ埋まる。

委員 足助公社のイベントが街中と連携する機会が少なかったため、これからはもっと商店街、商工会と連携をしていきたい。

委員 チャレンジショップにどのような店にしばらくこいでいくか。こだわりの店、ターゲットをきちんとしぼったものがあるのではないか。まつりについて、商工まつりと連携する必要があるのか。観光客向けに足助公社で実施しているイベントと連携していくほうが重要ではないか。経営支援塾について、個別指導していくということだがどのように行うつもりか。

- 足助** 月に1度くらいのペースで年間10件程度を考えている。
- 委員** 単発的なアドバイスよりも具体的な経営改善ができる指導が必要。少人数のグループを作り、お互いが意見を述べ合う体制を作り、そこに専門的な指導者を派遣する仕組みを作ると効果があるのではないかと思う。情報提供事業の100万人のネットワークとは何か。
- 足助** 商工会の上部団体で日本商工会連合会のホームページで、それを活用しようと思っている。
- 委員** 観光客が行ってみたいと思わせるような口コミ情報が上手くホームページ上に載せられると効果があると思う。
- 足助** 広報紙でそのようなものを作っている
- 委員** 携帯電話を利用できると良い。
- 委員** 消費者が行ってみたいと思われるようなまちづくりをお願いしたい。すばらしい街並みが続いているので、ぜひ活性化をお願いしたい。商店街が広いのでレンタサイクルも良いのではないかと思う。
- 委員** ホームページを見る機会を増やすための情報発信もしていかなければならない。
- 委員** 個店の経営の活性化が一番大事だと思う。商工まつりについて、手直しできる部分があれば交付金事業として認めやすいと思う。
- 事務局** 商店街が合併し、その活性化計画を支援する商工会の交付金事業という高い位置付けに上がったので、単なる商工まつりではなく、事務局も一緒に検討させていただきたい。観光事業と連携して行うのが一番手取り早く効果が高いと思う。商工会、商店街、公社の三位一体で交付金事業を活用できるよう事務局と詰めさせていただきたい。
- 委員** 商工まつりについて、もう少し事務局と詰めていただくことを条件として、委員会として当計画の認定は妥当であると思う。

(7) 中小企業団体等事業の評価結果について

事務局より、資料7「中小企業団体等事業の評価結果について」に基づき内容説明を行い、決定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

- 委員** 何人で評価されたのか。
- 事務局** 事務局担当8名で評価した。
- 委員** B評価のところは補助率半減か。
- 事務局** そうなるが、活性化計画を策定したところは自己評価していただき、事務局としては3年間で評価していくことになる。
- 委員** C評価のところは無いが。
- 事務局** 再チャレンジの道を残した。
- 委員** 意欲を持たせるための評価ということか。
- 事務局** A評価についても、来年以降も評価していくので油断するとB評価になる可能性はある。
- 委員** 委員会として決定は妥当であると思う。

5 閉会

事務局 長時間に渡り、活発にご審議をいただきありがとうございました。
事務局がそれぞれ申請者とやりとりはしていましたが、詰めきれていない部分もあり、その部分を具体的に委員の皆様からご指摘いただけ、大変参考になりました。ありがとうございました。事業評価についても、問題意識を持って取り組んでいただきたいという意味で今回はB評価までとさせていただきます。ご理解いただきたい。がんばる商店街事業も3年ということで折り返し地点。各地区で意識の差はあるものの、徐々に浸透してきているので、今後もますますご指導いただきたいと思います。本日はありがとうございました。

以上